

将来を見据えた グランドデザイン描く

堀口文昭市長が3月2日、2期目就任後初の平成28年八幡市議会第1回定例会で、今後の市政運営にあたっての所信を表明しました。その主な内容を紹介します。



堀口 文昭 市長

市政運営の所信

平成26年11月、「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、直面する人口減少を克服し、地域を創生していくために、国、都道府県、市町村、事業者、市民等が総力を挙げて取り組むことになりました。

そのことから、本市におきましても、人口の現状分析と将来展望を行い、それにより浮かび上がった課題に対する方策を、いかに講じていくかが問われているところでございます。

ご存知のとおり、本市の人口は、昭和40年代後半からの男山団地の開発を主因とし、全国屈指の人口急増団体となり、市制を施行することとなりました。平成7年度の国勢調査人口7万5千779人をピークとして、その後7万3千人まで人口は減少いたしました。美濃山、欽明台地域の開発により、平成17年度の国勢調査人口では、一時的に人口の増加が見られ、7万4千252人まで回復いたしました。しかし、平成27年度の国勢調査人口(速報値)では、7万2千748人と、また減少傾向に転じております。

本市は、京都、大阪の大都市圏への通勤に至極便利なベッドタウンとしての機能を有

しており、歳入の根幹はサラリーマン所得による個人市民税収入であります。人口減少、高齢社会が進むと納税義務者が減少し、市税収入が大幅に減収することが予測されます。さらに、高齢社会は、医療費、社会保障経費を大幅に上昇させ、市の財政運営を非常に厳しくさせる要因となります。

優良住宅用地の供給余力が少ない八幡市の現状からは、ある程度の人口減少、少子高齢化は、受け入れざるを得ないと思っております。しかし、将来にわたり、地域経済と都市機能を堅持していくためには、これから如何に人口減少幅を抑制していくのが、最大の課題であります。こうした課題を解消していくための基本的な視点としては、

- 1つには 出生率向上
- 2つには 転出入者対策
- 3つには 持続可能な行財政運営

4つには 国宝石清水八幡宮をはじめ、本市の豊かな自然と歴史文化を活用した交流人口の拡大を挙げることであります。どうかと思っております。

こうした視点を踏まえ、これからのまちづくりを進めてまいります。

まちづくり3つのプロジェクト

1 「子どもの未来を創生する」

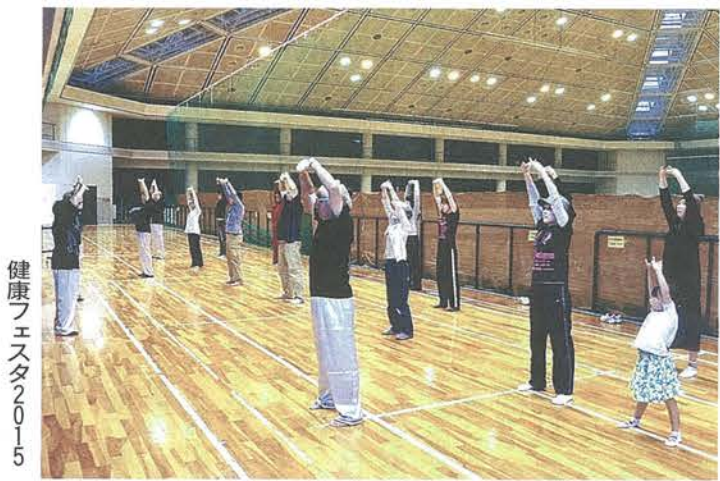


子ども・子育て支援センター すくすくの杜

八幡の未来をつくる子どもたちが、次代を生きる力を育むとともに、夢と志を抱き、それらに挑戦したいと思うような力を育成したいと思っております。また、待機児童がいないといったような、本市の子育て環境の魅力を発信し、八幡で子育てしたい、しつづけたいと思う人を増やしていきたいと思っております。

2 「健康」で「幸せ」を感じる

「健康」で「幸せ」を感じる 「健康」で「幸せ」を感じる 「健康」で「幸せ」を感じる 「健康」で「幸せ」を感じる



健康フェスタ2015

八幡の豊かな自然や歴史文化の中で暮らすことで健康になれる、そんなまちづくり「スマートウェルネスシティやわた」を目指します。

健康づくりを進めていくうえで、その土台となります計画を策定するとともに、高齢者の皆さまの健康寿命を延ばすため、誰もが気軽に健康づくりに取り組める運動や食事等のプログラムの開発や提供を進めたいと考えております。そして、やわた健康マイレージの創設、歩道のバリアフリーや景観整備を行い、自然と出歩きたくなるまちづくりを進めていきたいと思っております。

3 「文化と暮らしの創生」



国宝・石清水八幡宮

本年2月9日に、石清水八幡宮が国宝に指定されました。その他にも八幡には魅力的な文化や暮らしがあります。しかし、それら市の財産の磨き上げや情報発信が十分ではないと思っております。

まずは観光都市へのチャレンジです。先ほども述べましたが、石清水八幡宮が国宝になるなど、本市の観光には追い風が吹いています。

この好機を活かし、松花堂などのお茶に関する文化資源、三川合流域や流れ橋などの観光資源等をつなぎ、観光消費額が上がる環境整備を進めたいと思っております。

さらには、府道八幡インター線、府道内里城陽線の整備、橋本駅周辺拠点整備、外国人向けのサインやWi-Fiの整備など交通アクセスとおもてなし環境の整備を進めなければなりません。

一方では、八幡での創業支援を充実していくとともに、「農業」の活性化に向けた次代の農業を支える人への応援も充実してまいります。

子どもが楽しくいきいきと育ち、市民誰もが健康で幸せに暮らせるまちにするともに、市民の誇りである豊かな自然と歴史文化にさらに磨きをかけ、魅力を発信してまいります。そして、これらの取り組みを通じて、「まち」を形づくる「ひと」が育ち、「ひと」と「ひと」との

※市政運営の所信(全文)は、市ホームページでご覧いただけます。